

平成29年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業

海からのメッセージ

～錦江湾縦断111kmの旅。カヌーと徒歩で、めざせ佐多岬！～

- 1 趣 旨 水深200mの深海をもつ雄大な鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、異年齢との交流を図りながら自然の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 平成29年8月13日（日）～8月19日（土） 6泊7日
- 3 参加対象 小学5年生～高校生（不登校など心に悩みをもつ児童生徒を含む。）
- 4 募集定員 30人
- 5 参加者 30人（小学生15人 中学生11人 高校生4人）
- 6 指導者 外部講師4人 国立大隅青少年自然の家7人 ボランティア11人
- 7 日 程

日 時	移動区間（移動方法）	宿泊場所	移動距離
8月13日(日)	国分海浜公園～境小学校（カヌー）	境小学校（体育館泊）	約14km
8月14日(月)	境小学校～牛根港～協和小学校 （カヌー→徒歩）	協和小学校（体育館泊）	約18km
8月15日(火)	海潟漁港～鹿屋体大海洋スポーツセンター（カヌー）	新城海の家（テント泊）	約24km
8月16日(水)	鹿屋体大海洋スポーツセンター～根占港（カヌー）	根占みなと公園（テント泊）	約18km
8月17日(木)	根占港～佐多伊座敷体育館（徒歩）	佐多伊座敷体育館設泊	約20km
8月18日(金)	佐多伊座敷体育館～旧大泊小学校 （徒歩）	旧大泊小学校（体育館泊）	約12km
8月19日(土)	旧大泊小学校～佐多岬（徒歩） ゴール後バスで新城海の家へ移動		約5km 新城海の家 12:00 解散

8 事業運営上の配慮

- (1) 6泊7日の期間中、参加者がゴールに向かって意欲的に活動できるように、111kmという数値的な目標とゴールが本土最南端の佐多岬という地理的な目標を設定した。



- (2) 各市町村（霧島市，垂水市，鹿屋市，錦江町，南大隅町）や各関係機関（各警察署，消防署，漁業協同組合，小学校，病院，海上保安部）と連携を密にし，活動中の安全対策を万全にし，活動を行った。

- (3) 異年齢や男女比を考慮しながら班構成をし、班長を中心に目標に向かって協力したり、自分の役割を果たしたりできるようにした。また、各班に班付きリーダー（ボランティア）を2人ずつ配置し、個に応じた支援が手厚くできるように工夫した。
- (4) 今回は、カヌーで6.6km、徒歩で4.5kmの活動に重きを置き、炊飯活動やその他の活動は簡単にできる内容にした。

## 9 事業の実際

- (1) 初日の午前中は、国分海浜公園体育館において、出会いのつどいや班編成、カヌーの漕ぎ方や安全に関する学習を行った。初めてカヌーに乗る参加者が多く、陸上でしっかりと漕方指導をした。また、海上で実際に沈からの再上艇する練習を行い、恐怖心を無くす取り組みを行った。午後からは実際にスタートした。潮の流れの影響で、途中曳航する場面も見られたが、夕方7時前に何とか到着することができた。初めてのカヌーにうまく漕げない場面も見られたが、全員が1.4kmを達成できた。
- (2) 2日目は、カヌーで8.5km、徒歩9.5kmの計18kmを移動した。2日目ということで、カヌーの漕ぎ方もだいぶ慣れてきた。班を中心にお互い声掛けや協力をする姿が見られるようになってきた。途中から徒歩に変わったが、カヌー以上に班行動が明確で、班のまとまりを感じる場面となった。全員が18kmを達成できた。
- (3) 3日目は、今回最長距離の2.4kmをカヌーで移動する計画だったが、大雨と雷の影響で、カヌーを断念し徒歩に切り替えて取り組んだ。2時間半遅れでのスタートとなり、かなり早いペースでの徒歩となったが、班で声を掛け合い励ましながら、予定通りの時間に全員が2.4km達成できた。
- (4) 4日目は、最後のカヌーということもあり、多少の波があったが、カヌーを実行して取り組んだ。午前中の途中までは隊列をしっかり組みスムーズに進んだが、途中からの大波の影響で船酔い状態となり、かなりつらい状況だった。それでも全員決して諦めることなく昼食場所まで進むことができた。午後からは途中止まることなく突き進み、全員が1.8kmを達成できた。海の状況が悪い中でもカヌーを漕ぎ抜いたことで、参加者の気持ちにも自信が出てきたように感じられた。
- (5) 5日目は、徒歩で約20kmを歩いた。スタートしたとき



から、坂道が続く行程だったが、カヌーと違って班の仲間やリーダーと会話がいつでもできて、楽しい雰囲気が進むことができた。途中足にマメができた参加者もいたが、弱音を吐くことなく全員が20kmを歩くことができた。

(6) 6日目は、徒歩で12kmを歩いた。前日よりも距離は短かったが、アップダウンが激しく、厳しい道のりだった。それでもゴールが近づいてきているという感覚からか、みんな元気に歩くことができた。この日は最後の宿泊になるので、夕食は班を中心にバーベキューを楽しんだ。また、夜はキャンプファイヤーでの交流を通して、今までの活動の振り返りや参加者同士の絆を深め、最終日への意識を高めることができた。

(7) 最終日は、佐多岬まで約5kmを歩いた。今までの活動を振り返りながら1歩1歩踏みしめてゴールを目指した。全員が予定通り佐多岬にゴールすることができ、達成感を味わうことができた。その後新城海の家へ移動し、解散式を行った。代表の学生は、7日間の苦労や仲間の大切さ、達成できた喜びやスタッフへの感謝の意を述べた。また、班付きリーダーからも参加者へ心に残る言葉を送った。

(8) 毎日、参加者就寝後スタッフミーティングを実施し、班活動の状況や子供たちの様子など意見を出し合い、共通理解を図った。また、班付きリーダーは、参加者が提出する活動の記録をチェックし、励ましの言葉やアドバイスなど個に応じた支援を行った。

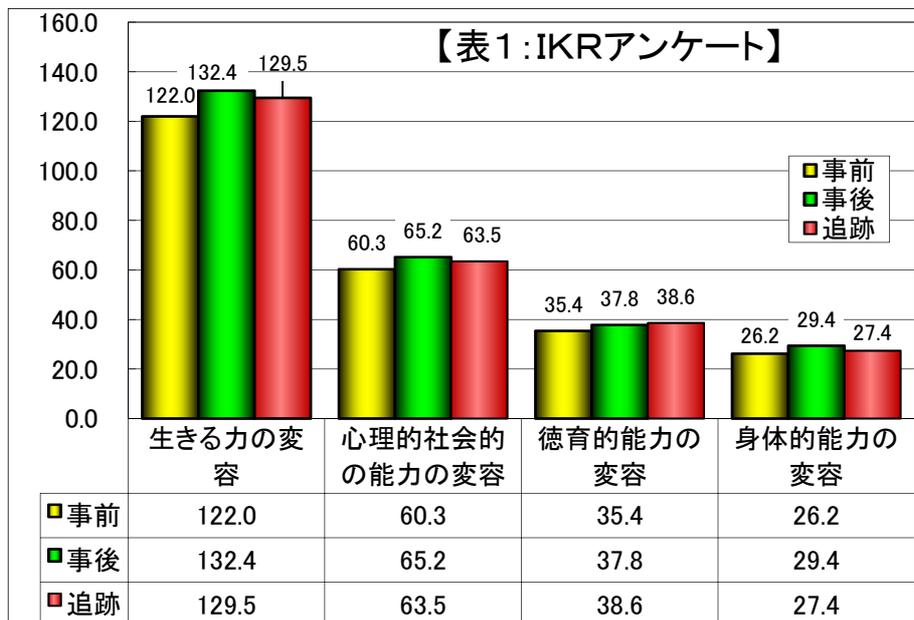


## 10 アンケート結果

### (1) IKRアンケート結果

生きる力の変容を見ると、事前から事後にかけて10.4ポイント向上し、有意差が見られた。

【表1】その中でも「前向きに、物事を考えられる」(積極性)、「自分の問題点や課題を見つけることができる」(視野・判断)、「花や風景などの美しいものに、感動できる」(自然への感心)、「洗



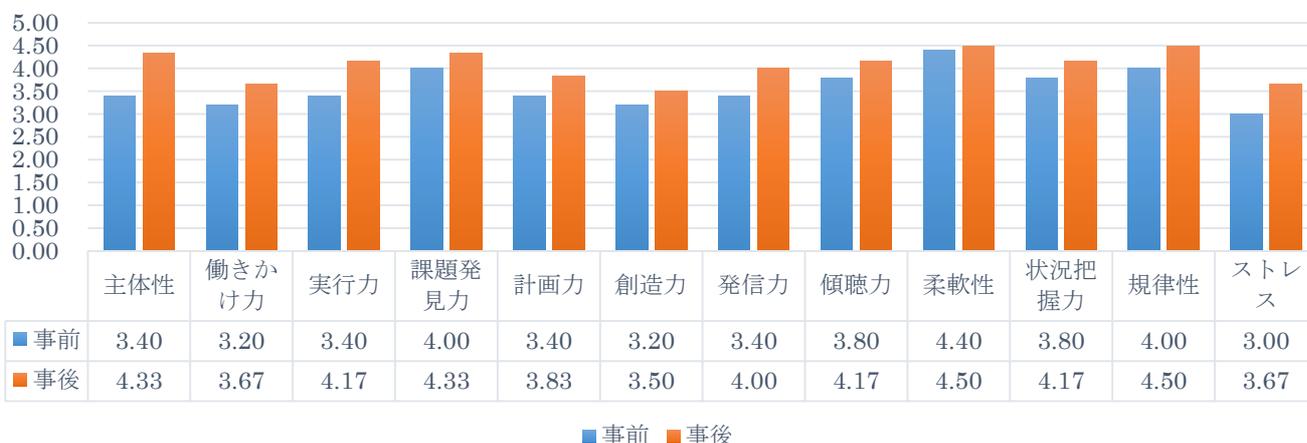
濯機がなくても、手で洗濯できる」(野外技能・生活)の内容に大きな向上が見られた。6泊7日という長期宿泊体験及び111kmという長い距離を進む活動を通して、自分自身を見つめことで自己の課題を発見したり、前向きに物事を考えたりすることや自然への関心、生活能力が向上したと考えられる。

## (2) ボランティアの社会人基礎力アンケート

社会人基礎力では、主体性や実行力、発信力、ストレスコントロール力は向上傾向が見られたが、課題を発見する力、創造力、傾聴力、柔軟性、状況把握力については、あまり伸びは見られなかった。

【表2】6泊7日という長期宿泊体験を通して、目標を設定し積極的に取り組むことや自分の意見を班のみんなに分かりやすく伝えるができたと考えられる。その反面、班の課題を発見したり、課題に対して新しい解決策を見つけたり、自分がどのような役割を果たすべきかを理解したりすることが参加する前に比べて思っていた以上に難しかったと振り返っていることが分かる。

社会人基礎力【表2】



## 11 参加者・ボランティア・保護者の感想

### (1) 参加者の感想

6泊7日のキャンプから1週間ほど過ぎました。私が一番覚えているのがカヌーです。カヌーでは色々つらいこと、またはハプニングなどあり、疲れました。しかし、そのカヌーで学んだ「努力・協力」の2つを今の生活で活用しています。私はボランティアクラブで色々なイベントのお手伝いをしています。昨年までは、クラブの人数が多かったですが、今年から人数がとてま少なくなりました。そこで、私の今の目標が決まりました。「みんなで、協力・努力・全力で盛り上げる」ということです。今の私の目標があるのは、「海からのメッセージ」に参加したおかげだと思います。私はみんなとお別れをして、すぐは寂しく無かったのですが、今となってはじわじわと寂しさが増してきました。またみんなと会える日まで、一生懸命頑張ります。

### (2) ボランティアの感想

6月にボランティア研修を受け、今回の「海からのメッセージ」が初めてのボランティア参加となりました。初めての参加だったので私自身不安もありましたが、スタッフの方々、他の



ボランティアの方々の指導、支援もあり、7日間子ども達と楽しく過ごすことができました。きついこと、つらいこと、慣れないことが多くある中で、誰一人かけることなく、全員でゴールできたことを嬉しく思います。子ども達は日を追うごとに精神面、体力面ともに成長していたように思います。ボランティアとして子ども達の成長を目の前で見ることができ、感動するとともに、6泊7日の自然体験活動が子ども達に与える影響は大きいのだと実感しました。私自身も多くのことを学び、成長することができました。私自身幼い頃から海や山が遊び場だったので、子ども達にもっと自然の楽しさを知ってもらいたいという気持ちがあり、今後もこうした自然体験事業に参加できればと思っています。ボランティアとして初心者で未熟な私ではありますが、今後も職員の皆様のご指導頂けたら嬉しく思います。今回の「海からのメッセージ」に参加させていただきよい経験となりました。ありがとうございました。



### (3) 保護者の感想

娘は友達関係作りに、不器用なところがあります。特に同性に対して、何を話せばよいか気を遣いすぎるようです。しかし、今回のように、目標に向かってみんなで力を合わせる活動を通して、お互いの信頼関係を作ることができたのではないかと思います。そのため、帰宅した時の表情がとてもよく本人なりに充実していたと感じました。111km旅をし、ゴールしたことで自分に自信が持てたと思います。自己肯定感の低さが少しでもアップされたのではないのでしょうか。異年齢集団での役割を意識し行動しようと思い始めたと思います。たくさんの人にもまれないとできないことでした。不器用で粗雑な娘がゴールできたのも、メンバーの皆様やボランティア・スタッフの皆様のおかげです。温かな声かけありがとうございました。

### 12 成 果

- 111kmという長くて、苦しい道のりを仲間の協力や支援はもちろんだが、自分の力でゴールできたという達成感を味わうことができた。このことは「やればできる」という大きな自信につながった。
- 6泊7日という長期宿泊体験で、仲間との協力性や自分から進んで行う主体性、相手の立場に立って行動する思いやりの心を培うことができた。また、寝食を共にする仲間との絆を深めることができた。
- 毎日のミーティング等で、子供たちの様子や健康状態などスタッフ全員で共通理解をし、気になる参加者に対しては全員で対応することができた。

